

# ほっかいどうの社会保障

2009年2月18日

北海道社会保障推進協議会

## 雇用・くらし『SOSネット』動き出す 無料の大部屋で寝泊まりする 7人が生活保護を集団申請 **札幌市**

首切りや派遣切りなどによって、仕事や家を失い、札幌市北区の不動産会社が無料で提供している大部屋で寝泊まりをしている男性7人が、北区役所で生活保護の集団申請を行いました。

この間「SOSネット」では、札幌市保護指導課と交渉し、以下のおもな内容を確認した上での申請です。

- 「住居を失い、居住地が無い人でも保護申請を受け付ける」
- 「大部屋で寝起きしている人は、その場所を現在地として認定し、現在地を所管する実施機関が保護申請を受け付ける」
- 「働く能力のある人、若い人でも働く場所がない場合、派遣切りなどで職を失った人、アルバイトなどで低収入しか得られない人の保護申請を受け付ける」
- 「手持ち金が無い場合は、「つなぎ資金」を交付する

この集団申請には、道生連と地元守る会、道労連、道社保協、民医連や司法書士など20数人が付き添いとして参加し、保護申請を援助しました。

### 安心した表情をとり戻し、自立へ踏み出す

7人は、体も健康でみな働き盛りですが、「手持ち金ゼロ」「俺は1,500円」「2,000円しかない」などの逼迫した中での保護申請とともに、「つなぎ資金」は「予算がないので3,000円で」（保護課長談）とわずかですが交付され、安心した表情を取り戻しました。まず住む家探しを開始し、生活保護を受けながらの自立への一歩を踏み出しました。

## 「2/20街頭共同相談会」案内ビラ しばれる中、ハローワーク前で宣伝行動

17日、「2.20街頭共同相談会」の街頭宣伝を札幌市内3カ所のハローワークで行いました。

東区にある北ハローワーク前には、道労連、道社保協、いの健、道民医連から6人が参加。雪の中、-5℃という寒さでしたが、1時間半にわたって「相談会があります。是非、足を運んでください」とビラとテッシュを配布しました。52才の元タクシー運転手は、「半年通ったが50才過ぎると職が全くない。1年の派遣だがやっと送迎の運転手が見つかった。しかし、生活は不安でしょうがない。定額給付金よりも消費税止めるべき」との意見が寄せられました。



### 道・道社保協と「緊急つなぎ資金」で交渉

### 「生活資金貸付事業の機敏で柔軟な対応はできない。規定通り」

「SOSネット」（道労連、道生連、道社保協、司法書士が参加）は、17日、かねてより道と道社会福祉協議会（社協）へ要請していた「緊急つなぎ資金」の実施について、交渉を行いました。

緊急小口資金（特例貸付・10万円限度、利子3%）について「1万円でも良いから、生活保護申請者も対象にし、印鑑証明書は不要、住所は現在地で」（東京都で実施）と要請しましたが、「申請は受けるが、印鑑証明書と保証人は必要で、これがないと給付できない」との回答。

また、「生活保護を申請しないが、求職活動資金・就労に伴う収入が入るまで、生活資金として使いやすくしてほしい。派遣村の時と同じように、印鑑証明書は条件としない、住所は現在地でも受付を」についても、「あれは特別の措置で厚労省判断で東京都が実施したが、いまはやっていない。道も規定通りで緩和は考えていない」と、派遣切りや生活困難の実態をまったく認識していない冷たい態度に終始しました。

## 人間らしく暮らしたい

### 社会保障予算の増額を求める2.21市民集会

札幌：「もやい」スタッフ・富樫匡孝さん「希望は連帯」 旭川：社保協総会・名寄大高田哲教授  
釧路：生存権裁判弁護団事務局長・中島哲弁護士「現代の貧困と生存権保障」

